令和７年度児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題の現状について(概要)

１　要　　旨

文部科学省が全国における標記調査の結果を取りまとめたところであり、当該結果における山口県の状況について公表する。

２　調査対象

国公私立の小・中・高等学校、中等教育学校、特別支援学校

３　山口県における生徒指導上の諸課題の現状（国公私立計）

	山口県		全国	
暴力行為の発生件数（小・中・高・中等）	1,223件（−58）	1,000人当たり 9.6件（−0.3）	134,895件（+6,036）	1,000人当たり 11.0件（+0.6）
いじめの認知件数（小・中・高・中等・特）	4,141件（−33）	1,000人当たり 32.1件（+0.4）	791,784件（+22,762）	1,000人当たり 64.0件（+2.7）
不登校児童生徒数（小・中・高・中等・特）	小学校 1,392人（−20）	1,000人当たり 23.9人（+0.5）	140,946人（+3,242）	1,000人当たり 24.0人（+1.0）
	中・中等前期課程 2,121人（−40）	1,000人当たり 65.4人（+0.1）	216,762人（+496）	1,000人当たり 68.7人（+0.8）
	高・中等後期課程 456人（−2）	1,000人当たり 15.6人（+0.1）	67,844人（+62）	1,000人当たり 23.5人（+0.2）
	特別支援学校小学部 17人	1,000人当たり 24.5人	629人	1,000人当たり 11.3人
	特別支援学校中学部 38人	1,000人当たり 68.6人	1,087人	1,000人当たり 31.1人
	特別支援学校高等部 41人	1,000人当たり 50.2人	4,139人	1,000人当たり 62.2人
中途退学者数（高・中等・特）	高・中等後期課程 440人（−39）	中途退学率 1.2%（−0.1）	43,978人（−593）	中途退学率 1.4%（±0）
	特別支援学校高等部 16人	中途退学率 2.0%	759人	中途退学率 1.2%

※　（　）内は前年度との比較　白抜きは全国数値を上回った数値

※　特別支援学校における不登校児童生徒数及び中途退学者数は今回調査で新たに追加

山口県調査学校数

＜国　立　学　校　数＞　小学校2校、中学校2校、特別支援学校1校

＜公立学校数（分校含む）＞　小学校261校、中学校141校（中等教育学校前期課程１校を含む）
高等学校54校（中等教育学校後期課程１校を含む）、特別支援学校13校

＜私　立　学　校　数＞　中学校8校、高等学校23校

令和７年度児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題の現状について

（１） 暴力行為（国公私立小・中・高等学校及び中等教育学校）

⇒ **資料１**(P. 7)

区　分		令和７年度	
		発生件数（件）	1,000人当たりの発生件数（件）
小	**山口県**	**636　(−106)**	**10.9（−1.4）**
	全国	85,886　(+2,889)	14.6（+0.8）
中	**山口県**	**533　(+40)**	**16.4（+1.5）**
	全国	42,665　(+2,626)	13.5（+0.9）
高	**山口県**	**54　(+8)**	**1.5（+0.2）**
	全国	6,344　(+521)	2.0（+0.2）
計	**山口県**	**1,223　(−58)**	**9.6（−0.3）**
	全国	134,895　(+6,036)	11.0（+0.6）

※　（　）内は前年度との比較

○　全国の状況

・　暴力行為の発生件数は、134,895件（小学校85,886件、中学校42,665件、高等学校6,344件）であり、前年度より6,036件増加し、過去最多となった。

・　形態別では、「生徒間暴力」が99,668件（小学校65,444件、中学校30,067件、高等学校4,157件）で最も多く、「器物損壊」18,750件、「対教師暴力」14,958件、「対人暴力」1,519件と続く。

○　本県の状況

・　暴力行為の発生件数は、1,223件（小学校636件、中学校533件、高等学校54件）であり、前年度より58件減少した。1,000人当たりの発生件数は9.6件であり、全国数値（11.0件）を下回っている。

・　形態別では、「生徒間暴力」が862件（小学校436件、中学校390件、高等学校36件）で最も多く、「対教師暴力」215件、「器物損壊」134件、「対人暴力」12件と続く。

（２） いじめ

⇒ **資料２**(P. 7)

① 本県の国公私立小・中・高・中等教育学校及び特別支援学校の状況

区 分		令和７年度	
		認知件数（件）	1,000人当たりの認知件数（件）
小	**山口県**	**2,820 (−66)**	**48.5 (+0.6)**
	全国	620,774 (+10,162)	105.8 (+3.9)
中	**山口県**	**1,167 (+59)**	**36.0 (+2.5)**
	全国	146,217 (+10,352)	46.4 (+3.8)
高	**山口県**	**121 (−33)**	**4.2 (−1.1)**
	全国	20,570 (+1,679)	6.5 (+0.6)
特	**山口県**	**33 (+7)**	**16.0 (−2.4)**
	全国	4,223 (+569)	26.9 (+3.1)
計	**山口県**	**4,141 (−33)**	**32.1 (+0.4)**
	全国	791,784 (+22,762)	64.0 (+2.7)

※ （ ）内は前年度との比較

○ 全国の状況

・ いじめの認知件数は、791,784件（小学校620,774件、中学校146,217件、高等学校20,570件、特別支援学校4,223件）であり、前年度より22,762件増加し、過去最多となった。

・ いじめの態様について、全国的に「冷やかしやからかい、悪口や脅し文句、嫌なことを言われる」が最も多く、小・中・特別支援学校では「軽くぶつかられたり、遊ぶふりをして叩かれたり、蹴られたりする」、高等学校では「仲間はずれ、集団による無視をされる」が続く。

○ 本県の状況

・ いじめの認知件数は、4,141件（小学校2,820件、中学校1,167件、高等学校121件、特別支援学校33件）であり、前年度より33件減少した。1,000人当たりの認知件数は32.1件であり、全国数値（64.0件）を下回っている。

② 本県のいじめ防止対策推進法第２８条第１項に規定する重大事態の状況

区 分	令和７年度	
	重大事態の発生件数（件）	1,000人当たりの発生件数（件）
山口県	**4 (−6)**	**0.03 (−0.05)**
全国	1,798 (+394)	0.15 (+0.04)

※ （ ）内は前年度との比較

※ 令和２年度調査から県別を公表

○ 全国の状況

・ いじめの重大事態の発生件数は1,798件であり、前年度より394件増加し、過去最多となった。

○ 本県の状況

・ いじめの重大事態の発生件数は4件であり、前年度より6件減少した。1,000人当たりの発生件数は0.03件であり、全国数値（0.15件）を下回っている。

（３） 不登校

⇒ 資料３(P. 8)

① 本県の国公私立小・中学校及び中等教育学校前期課程の状況

区 分		令和７年度	
		不登校 児童生徒数（人）	1,000人当たりの 不登校児童生徒数（人）
小	山口県	1,392 (−20)	23.9 (+0.5)
	全国	140,946 (+3,242)	24.0 (+1.0)
中	山口県	2,121 (−40)	65.4 (+0.1)
	全国	216,762 (+496)	68.7 (+0.8)
計	山口県	3,513 (−60)	38.8 (+0.5)
	全国	357,708 (+3,738)	39.6 (+1.0)

※ （ ）内は前年度との比較

② 本県の国公私立小・中学校及び中等教育学校前期課程の不登校児童生徒数の欠席日数ごとの内訳

区 分		令和７年度			
		30日以上 49日以下	50日以上 89日以下	90日以上	うち、出席日数0日
小	山口県	422 (−42)	407 (+29)	563 (−7)	33 (−4)
	全国	41,604 (+1,048)	37,673 (+1,262)	61,669 (+932)	3,571 (+1)
中	山口県	428 (+17)	427 (−17)	1,266 (−40)	80 (−16)
	全国	40,110 (−165)	46,424 (+1,654)	130,228 (−993)	7,064 (−222)
計	山口県	850 (−25)	834 (+12)	1,829 (−47)	113 (−20)
	全国	81,714 (+883)	84,097 (+2,916)	191,897 (−61)	10,635 (−221)

※ （ ）内は前年度との比較

※ 令和５年度調査から不登校日数の30日以上49日以下、50日以上89日以下の内訳を公表

○ 全国の状況

- 年30日以上欠席した不登校児童生徒数は357,708人であり、前年度より3,738人増加し、過去最多となった。
- 校種別では、小学校140,946人で前年度より3,242人増加、中学校216,762人で496人増加した。
- 小学校の不登校児童について把握した事実としては、「学校生活に対してやる気が出ない等の相談があった」が最も多く、「生活リズムの不調に関する相談があった」、「不安・抑うつの相談があった」、「親子の関わり方に関する問題の情報や相談があった」、「学業の不振や頻繁な宿題の未提出が見られた」と続く。
- 中学校の不登校生徒について把握した事実としては、「学校生活に対してやる気が出ない等の相談があった」が最も多く、「生活リズムの不調に関する相談があった」、「不安・抑うつの相談があった」、「学業の不振や頻繁な宿題の未提出が見られた」、「いじめ被害を除く友人関係をめぐる問題の情報や相談があった」と続く。

○　本県の状況

・　不登校児童生徒数は3,513人であり、前年度より60人減少した。1,000人当たりの不登校児童生徒数は38.8人であり、全国数値（39.6人）を下回っている。

・　校種別では、小学校1,392人で前年度より20人減少、中学校2,121人で40人減少した。1,000人当たりの不登校児童生徒数は、小学校は23.9人で全国数値（24.0人）を、中学校は65.4人で全国数値（68.7人）を、ともに下回っている。

③　本県の高等学校及び中等教育学校後期課程の状況

区　分		令和７年度	
		不登校生徒数（人）	1,000人当たりの不登校生徒数（人）
高	山口県	**456（−2）**	**15.6（+0.1）**
	全国	67,844（+62）	23.5（+0.2）

※　（　　）内は前年度との比較

④　本県の高等学校及び中等教育学校後期課程の不登校生徒数の欠席日数ごとの内訳

区　分		令和７年度			
		30日以上49日以下	50日以上89日以下	90日以上	うち、出席日数0日
高	山口県	**273（+5）**	**122（+1）**	**61（−8）**	**6（+4）**
	全国	40,017（+622）	18,488（+189）	9,339（−749）	442（−24）

※　（　　）内は前年度との比較

※　令和５年度調査から不登校日数の30日以上49日以下、50日以上89日以下の内訳を公表

○　全国の状況

・　年30日以上欠席した不登校生徒数は67,844人であり、前年度より62人増加した。

・　不登校生徒について把握した事実としては、高等学校においては、「学校生活に対してやる気が出ない等の相談があった」が最も多く、「生活リズムの不調に関する相談があった」、「不安・抑うつの相談があった」、「学業の不振や頻繁な宿題の未提出が見られた」、「いじめ被害を除く友人関係をめぐる問題の情報や相談があった」と続く。

○　本県の状況

・　不登校生徒数は456人であり、前年度より2人減少した。1,000人当たりの不登校生徒数は15.6人であり、全国数値（23.5人）を下回っている。

⑤　本県の特別支援学校の状況

区　分		令和７年度	
		不登校児童生徒数（人）	1,000人当たりの不登校児童生徒数（人）
小	山口県	**17**	**24.5**
	全国	629	11.3
中	山口県	**38**	**68.6**
	全国	1,087	31.1
高	山口県	**41**	**50.2**
	全国	4,139	62.2

※　特別支援学校における不登校児童生徒数は今回調査で新たに追加

⑥　本県の特別支援学校の不登校児童生徒数の欠席日数ごとの内訳

区　分		令和７年度			
		30日以上 49日以下	50日以上 89日以下	90日以上	うち、出席日数0日
小	山口県	**4**	**3**	**10**	**1**
	全国	175	137	317	26
中	山口県	**11**	**7**	**20**	**0**
	全国	235	211	641	61
高	山口県	**27**	**1**	**13**	**2**
	全国	2,575	442	1,122	56

※　特別支援学校における不登校児童生徒数は今回調査で新たに追加

○　全国の状況

・　年30日以上欠席した不登校児童生徒数は5,855人（小学部629人、中学部1,087人、高等部4,139人）であった。

・　不登校児童生徒について把握した事実としては、小学部、中学部、高等部ともに、「生活リズムの不調に関する相談があった」が最も多く、「学校生活に対してやる気が出ない等の相談があった」「不安・抑うつの相談があった」と続く。

○　本県の状況

・　不登校児童数は小学部17人で、1,000人当たりの不登校児童数は24.5人であり、全国数値（11.3人）を上回っている。

・　不登校生徒数は中学部38人で、1,000人当たりの不登校生徒数は68.6人であり、全国数値（31.1人）を上回っている。

・　不登校生徒数は高等部41人で、1,000人当たりの不登校生徒数は50.2人であり、全国数値（62.2人）を下回っている。

（４）中途退学（高等学校・中等教育学校後期課程及び特別支援学校高等部）　⇒ 資料４(P.8)

区　分		令和７年度	
		中途退学者数（人）	中途退学率（%）
高	山口県	**440　(-39)**	**1.2（-0.1）**
	全国	43,978　(-593)	1.4　(±0)
特	山口県	**16**	**2.0**
	全国	759	1.2

※　（　　）内は前年度との比較

※　特別支援学校における中途退学者数は今回調査で新たに追加

○　全国の状況

・　高等学校、中等教育学校後期課程の中途退学者数は43,978人であり、前年度より593人減少した。中途退学の理由は、「進路変更」が最も多く、「学校生活・学業不適応」と続く。

・　特別支援学校高等部の中途退学者数は759人であった。中途退学の理由は、「進路変更」が最も多く、「学校生活・学業不適応」と続く。

○　本県の状況

・　高等学校及び中等教育学校後期課程の中途退学者数は440人であり、前年度より39人減少した。中途退学率は1.2%であり、全国数値（1.4%）を下回っている。

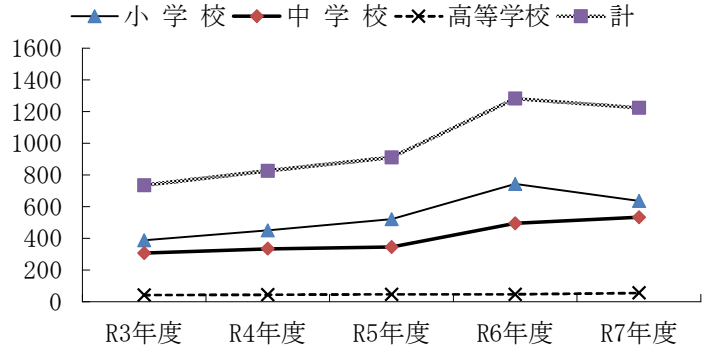
・　特別支援学校高等部の中途退学者数は16人であった。

資料１　暴力行為の状況（R7 山口県：国公私立）

（文部科学省：「児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査」から）

暴力行為の定義「自校の児童生徒が、故意に有形力（目に見える物理的な力）を加える行為」

＜発生件数の推移＞



区　分	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
小学校	388	449	520	742	636
中学校	306	333	344	493	533
高等学校	41	43	46	46	54
計	735	825	910	1,281	1,223

＜暴力行為の内訳（件数）＞　※（　）内は前年度との比較

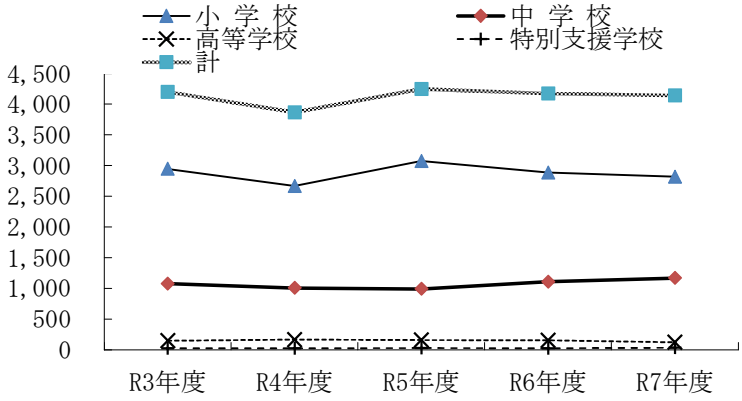
	対教師	生徒間	対人	器物	計	1,000人当たりの発生件数（件）
小	146(-23)	436(-60)	2 (-1)	52(-22)	636(-106)	10.9 (-1.4)
中	66(+13)	390 (+2)	5 (±0)	72(+25)	533 (+40)	16.4 (+1.5)
高	3 (-1)	36(+11)	5 (-1)	10 (-1)	54 (+8)	1.5 (+0.2)
計	215(-11)	862(-47)	12 (-2)	134 (+2)	1,223(-58)	9.6 (-0.3)

資料２　いじめの状況（R7 山口県：国公私立）

（文部科学省：「児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査」から）

いじめの定義「児童生徒と一定の人的関係のある他の児童生徒が行う心理的又は物理的な影響を与える行為（インターネットを通じて行われるものも含む。）であって、当該行為の対象となった児童生徒が心身の苦痛を感じているもの」

＜認知件数＞



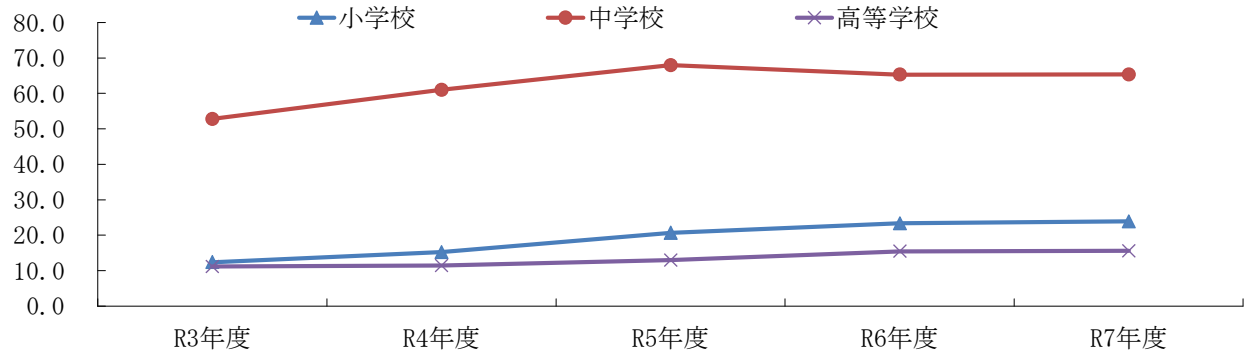
区　分	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
小学校	2,945	2,670	3,072	2,886	2,820
中学校	1,079	1,008	991	1,108	1,167
高等学校	147	166	156	154	121
特別支援学校	26	23	28	26	33
計	4,197	3,867	4,247	4,174	4,141

資料３　不登校の状況（R7 山口県：国公私立）

（文部科学省：「児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査」から）

不登校の定義「年度間に30日以上欠席した児童生徒のうち、何らかの心理的、情緒的、身体的、或いは社会的要因・背景により、児童生徒が登校しない或いはしたくともできない状況にあるもの（病気や経済的な理由によるものを除く）」

＜不登校児童生徒数の推移（１，０００人当たりの不登校児童生徒数）＞



不登校児童生徒数

	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
小学校	807	973	1,284	1,412	1,392
中学校	1,796	2,060	2,286	2,161	2,121
高等学校	348	345	387	458	456

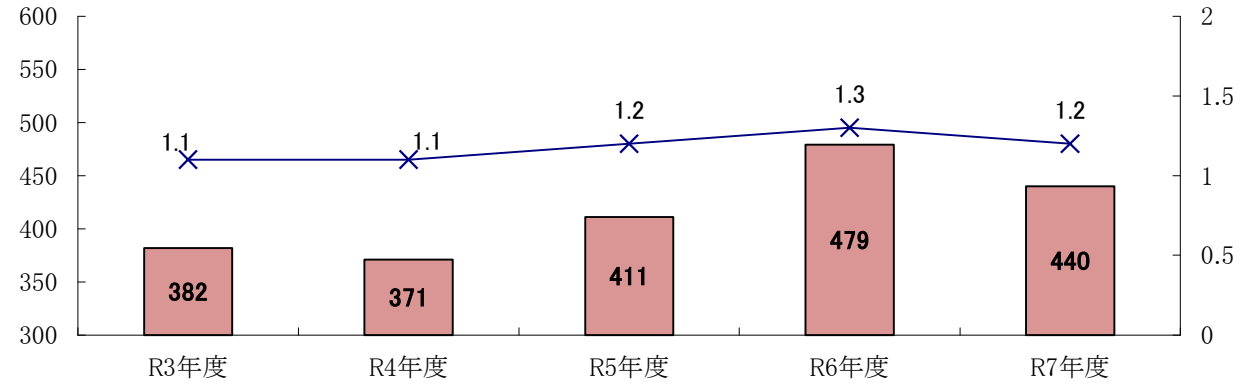
1,000人当たりの不登校児童生徒数

	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
小学校	12.4	15.2	20.7	23.4	23.9
中学校	52.8	61.0	68.0	65.3	65.4
高等学校	11.2	11.4	13.0	15.5	15.6

資料４　中途退学の状況（R7 山口県：国公私立高等学校）

（文部科学省：「児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査」から）

＜中途退学者数及び中途退学率の推移＞



＜理由別中途退学者数＞　※（　）内は前年度との比較

理　由	高・中等後期課程 人数	率
進路変更	181　(−17)	41.1%
学校生活・学業不適応	113　(±0)	25.7%
病気・けが・死亡	48　(+9)	10.9%
学業不振	31　(−25)	7.0%
家庭の事情	27　(−2)	6.1%
問題行動等	18　(−11)	4.1%
経済的理由	4　(+2)	0.9%
その他の理由	18　(+5)	4.1%
計	440　(−39)	−